

大成零号地区魚類調査に係る現地研修を開催しました

令和3年11月2日(火)、橋梁工実施設計をするにあたり、現地の生息魚類を把握するための魚類生息調査業務を実施している「農村整備事業 大成零号地区(別海町)」で、環境との調和に配慮した農業農村整備への理解を深めることを目的とした現地研修を開催しました。

当課の職員12名が参加し、調査業務を委託している環境コンサルタント(株)から調査内容や採捕方法、その留意点等について説明がありました。



魚類調査を行った橋梁下流部

【魚類生息調査に至った経緯】

河川護岸等の工事を伴う橋梁改修を実施する際、「農業農村整備事業等環境情報協議会」での内容を踏まえ実施しているもの。有識者や農業者・地域住民等からなる当該協議会は、『環境との調和への配慮』の必要性について議論し、その客観性・透明性を確保するため毎年開催しており、当該箇所について、魚類調査や魚道設置の検討について提案されました。



採捕されたアメマス



調査結果

アメマス 126尾
ヤマメ 1尾
イゾトヨ 22尾
フクドジョウ 8尾
ヤチガイ 1尾

【調査結果の利用】

- ・生息魚類を把握し、魚道等設置の必要性を検討する。
- ・仮設工法の検討材料とする。

河川環境に詳しい標津サーモン科学館から提案のあった環境DNA調査についても説明がありました。環境DNA調査は河川水に含まれる生物の体液や鱗・糞便由来の「環境DNA」を解析し、環境サンプルに含まれている生物の痕跡を調査するもので、今回採捕できなかった魚類などの補足検討に活用できます。



環境DNA調査

採捕した魚類は河川へ放流し調査は終了。職員からは「こんなに沢山の魚が生息しているとは思わなかった。」という声も出ていました。